

# 中ネギの9～10月まき作型における第1回目収穫日の推定法

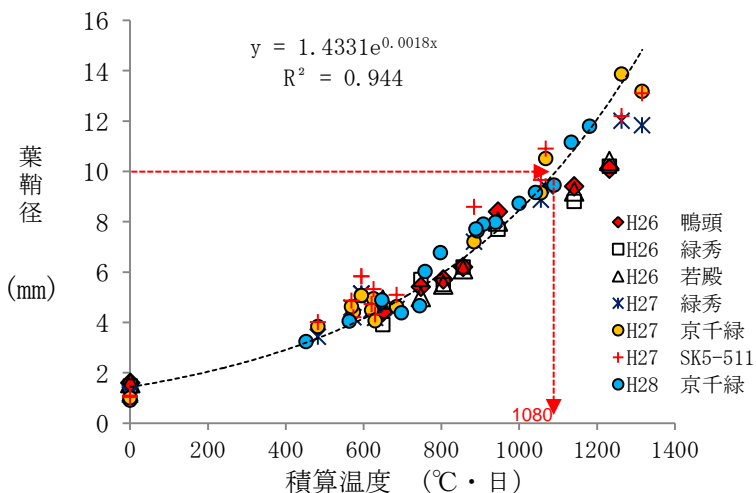
定植日からの積算温度を利用することで、第1回目の収穫日を予測する手法を開発した。

## 背景・目的

- ・中ネギは、“きざみネギ”として加工業務用の需要が高い。低コスト化の観点から露地、大規模での栽培が行われている。
- ・実需側からは計画的な出荷が求められることから、出荷計画策定においては収穫予測手法が不可欠である。

## 成果の内容

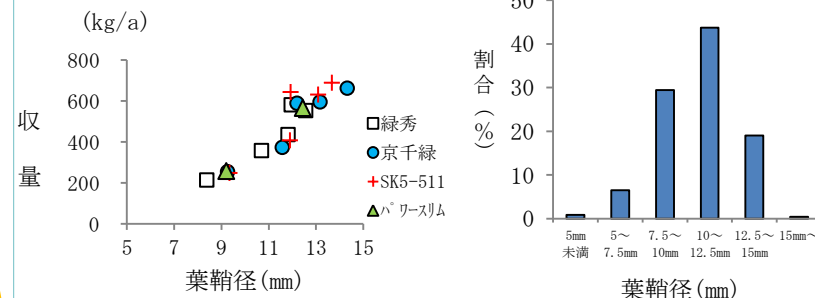
定植後の日積算温度(平均気温)で収穫日を予測可能



- エクセル等で日平均気温を積算することで簡単予測！
- 定植時は、平年値で計算。  
生育時は、計算日前日までの当年値と計算日からの平年値で計算。

※図中の矢印は葉鞘径10mm時の日積算温度が1080°Cであることを示す。

導入メリット



- 中ネギの出荷規格15mm未満で収穫する場合、葉鞘径の目安は10mmを推奨。
- 取引先の規格に応じた葉鞘径での収穫日の予測ができる。
- 葉鞘径を収穫の目安にすることで、品質が一定となる。
- 収穫日を予測できることで  
①播種計画やほ場利用計画が可能となる。  
②契約先に対して安定的に出荷するための計画策定が可能となる。

## 期待される効果

中ネギの安定生産と品質の均一化が安定需要の確保につながり、栽培出荷管理の計画化による規模拡大や所得向上が期待される。

普及対象・範囲  
離島地域を除く県内全域